



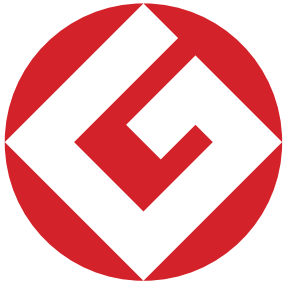
# GOOD DESIGN AWARD 2021



## 審査委員の評価

地域性生産物の価値を伝える研究と取り組み。建材として使われてきた、県を代表する木材である東濃檜を自社のこれまでの知見から家具用材として検証する。曲木として曲面で使用する事で木目の美しさと構造強度を両立させ、製材の事情による限られた長さをデザインによって解決し活かしている。端のディテールまで美しく仕上げ技術の高さが現れている。曲げわっぱを彷彿とさせ、柔らかく温かみのある美しい木目の外観が魅力的である。

担当審査委員 | 五十嵐 久枝 佐藤 弘喜 田子 學 藤城 成貴



# GOOD DESIGN AWARD 2021年度受賞



## 製品が生まれた背景

岐阜県を代表する木材に東濃檜があります。檜は密度では広葉樹に劣るものの、伐採から徐々に強度を増す特性や、美しい木目と芳香から特別な建築に使われてきた素材です。現状、弊社商品は使い慣れた輸入広葉樹が主であり、木質特性の異なる針葉樹主体の県産材を有効利用できずにいました。この魅力ある素材を自宅や旅先でお客様に楽しんで頂きたい思いと、地域性生産物の価値を伝える弊社家具生産の新たな一歩目とするべく、本製品の企画・デザインにあたりました。HINOCOは、優れたものを意味する「檜/ひ」から生まれた小さな「子/存在」、県産の素材や価値を伝えるきっかけ「ひのこ」になって欲しいと思います。

## デザインの経緯とその成果

東濃檜の魅力を「家具」として提案するにあたり、既存家具の素材変更ではない「檜の家具」を目指しました。家具用材として東濃檜を再度検証し、曲木に向く特性や面で使用することで木目の美しさが際立ち、構造強度も確保しやすいことが分かりました。檜の薄板による2種類の部品で、椅子に求められる強度・耐久試験の基準をクリアし、結果的に地元製材所の建材端材も活用できました。座面は手削りした形をNC切削で再現、左右同形状の曲木は着座時の足の収まりからテーパに組み、平行な接着面を構成するための3次曲面となっています。持ち手を兼ねたアーチ上部の継ぎ目には、その時々で手に入る県産広葉樹の木釘を打ち込んでいます。檜板に突き刺さる木釘は接着面積の増加と部品構成を視覚的に強調します。機械と職人の技術を使い分けることで量産可能な、県産材や地場産業の魅力があふれる新しい家具が生まれました。